續虛案

上

中村俊定文庫
文庫 18
101
1

古典文庫藏本

月ふるさとの
きれるふぜいとゝ
とゝ紅ゝ
て今やゝ白をかるりおもに
ゝらあるかゝ水月のゝ
あるて上代のゝ
よきゝおをのこゝ
るゝあり景のゝ
穿花蛺蝶深深見点水蜻蜓款款飛
かゝるふゝ
てやすゝ
むものゝ

序

事あり詩や哥やこゝろ乃餘りあまりて
無人船自横 月落かゝるあたら浪にもなかの林
かへし花を見てものそ言ひこゝろの
地を饒あらし野を見こしのちう作よろしくて
方寸を千々にくだくもの流りあるそかくち
なき草木を花ちらしあはれなきてにはを清し
まさる時の花をつみし花あり時の為そ一
夜書よたちふるに同し 頭のかいふ何の書
よむを年乃ら流しし人こゝ時のそ流はいふ
はかやすく語のこゝろを打ちそさかれに略すし
人乃師ともなれ名代らかきおへかしこく他のる
所をちうらくらく色をさくしてこゝを色

野渡

まろう人萬人乃心をうごきそれも又さて流
きたらる事あり梅の深巣の時にこゝさ
時よきちつとこれ此ほよまゝさるゝかでく地たちろ
さしをふくへしとなり余 笑ひくこれをうけ
ふりれつゝれてものをさせるに何かれと屈原楚
國をさりすれすりや 月れわくましくころ在句を
そのゝてそ作り入れくわまぬものゆへく
ろに辯をつのりやすきゝみすや 漆園乃書に
ものそきつまとまきちゝゝかいかたりわふかりし
こくに其角乃りし 雲れ傳をこそしら
て序あんでるをもまいてもみぬし
くりとそいへにひろひのこせる秋や色

[illegible]

江上隱士素堂書

[illegible]文庫

[illegible]

續虛栗集

春之部

改正

新年を[illegible]慶とかやあり八十年　釋任口

[illegible]　芭蕉

[illegible]　自悅

[illegible]　杉風

[illegible]　麋塒

[illegible]　文鱗

[illegible]

元日や家よりゆつりの太刀帯し　去來

ちる梅にかくすものなし　古男

生しの餅そもり春日哉　沾蓬

蓬莱や四辺に這ひ出る子　山店

百重に囲そつくるる春日哉　魚兒

鶯や　雑煮ゐるゐる里つき　尚白

ねもしろの春をかくる日和哉　千春

初こそ我こゝろ高ぶる和哉　觀水

日ぞ春をさそふ鶴の歩哉　其角

草かりうつ人時うたん　山川

ねるうぐいす枕やすあらしかな　如泥

総角うまに手篭や蘿つま　野馬

遊大音寺

梅うぐいす食の家もろがる　其角

岸の梅ねをきゝ渡す泳うれし　文鱗

梅の花義経なりし姿うれし　曲水

老慵

断ちわくい面苔をく老の賣もて　芭蕉

蕗乃とうほとゝ人の緑ゆれ 嵐雪

古草や新艸まじり土筆 文鱗

すみれ草節々さく垣ねかな 芭蕉

春雨や川邊なき根芹に 冬市

路しは束ても乱枕菜られ 沾徳

五月ほとゝ乃雛もあれる柳桑に 全峯

つゆしとも残雪にそやま蕨かな 由之

春行

昼乃夢幕末ことゆる霞に 仙化

きさらぎも霞さゝく蚊帳に 沾蓬

白魚の麹よ霞む沖帆乱れ 紋水

村の鶴つるに見合うかゝまに 巴風

巻付く覚えはふりまとひ 野馬

寒食乃蛸まとれぬるまゝかな 青亞

同游とかしまに詣ける時

乃りの波を離れた武蔵

船の月とつまり

さなにでんとひく

松泊や旭乃あたり 不卜

海[illegible]風[illegible]屋に近き[illegible]　峽水

蘭[illegible]や[illegible]の[illegible]　扇雪

[illegible]

巣の[illegible]幣くゝり　村雀　峽水

[illegible]

俺[illegible]も[illegible]情[illegible]　同

中山の[illegible]

廣き野[illegible]塔[illegible]　不卜

[illegible]　琴風

旅行　[illegible]

[illegible]水よ

[illegible]や鶴[illegible]飛込[illegible]　半残

巣[illegible]　舟竹

[illegible]　三園

雀[illegible]　其角

結廬在人境

[illegible]飛[illegible]　全

[illegible]　曽良

[illegible]
雨なきあとの孫ふかく　巴風
肩絡やすもる蝶の孫ふかく　嵐蘭
青柳よりより睡るこゝろ　衛門
ゆすわに目をつまれる柳かな　魚兒
[illegible]
曲もの[illegible]ひくまかるあめ柳かな　其角
柳ふく鼓もこゝろ歌をれ　同
[illegible]
妻もゝと遠ろへ風野猫乳　魚兒

嘯を分る孤遠乃ゝ　觀水

春晴

湯つゝ[illegible]紅をゝ[illegible]ゝ乳　其角

重三

不義女乃雛かゝ[illegible]ゝ袁れ　嵐雪
雛ゝゝ女の影と女い住れ　孤屋
小式部ゝ[illegible]世を雛乃小袖乳　紋水
所ゝ乃顔ゝ[illegible]ゝ桃乃宴　舉白
もゝ[illegible]ゝ雛ゝ[illegible]ゝ小盞　其角

[illegible]

世を忘れて我酒うらん　姪う雛　其角

草庵

[illegible]の雪待て上野寺　芭蕉

鶴(コウ)の巣もみえぬ花の梢哉　同

[illegible]　風虎

[illegible]

獨もゆく野辺の山　文鱗

[illegible]　舉白

花折と思ふ意あるべいたせん　仙化

[illegible]　安重

何事に人走除[illegible]　由之

[illegible]の夜なをすべき　巴風

[illegible]　魚兒

[illegible]

花盛　古[illegible]　元人　萩露

[illegible]

泳唯一心

[illegible]　觀水

書もと幾人か[illegible]ふるかな　破笠
家年乃[illegible]よいこわぬ小袖乃[illegible]　蚊足
もを思て人を懐を達ふかな　卜子
御霊屋いさゝか入あしの紀蓋　風笛
あらしかな飛あり[illegible]の山　嵐雪
[illegible]あるあぬ憂世男乃悔さかな　去來妹　千子
[illegible]乃と母よつまるつ[illegible]つゝ児　其角

月々酔如泥

花持て市乃礫あつゝん　同

春興　露沾

川辺人鑵流るゝ[illegible]
黄精（アヤトコロ）あり城の日乃影　十角
[illegible]冠を[illegible]
壁れを雨達　沾徳
月消て[illegible]乃[illegible]の白雪　嵐雪
人を[illegible]　嵐雪
[illegible]（ウ）[illegible]　虚谷
初秋[illegible]　角

蕎麦(きりゝす)の蔓くゝ小蕃くゝ　荷

樽かもとゝ見る　蕉雨雁　涼

敷くの田中の月も悲しくて　谷

俤くとすると俤の振袖　雪

思ひ出を揚ちくの園源　沾

三角の詩を詠て憂を忘ん　角

我輪を聞みて聞みて涼

吟吹上の垣の松風　荷

燭とて光すくの浦　雪

十小乃弥生の光くとく　谷

濃墨の鴉も羽を深雪　角

氷を漏る窓の雫　沾

ちるとも見えぬ紙子せられて　荷

来ずして待てもまく慰奥　涼

常陸帯の板八重の友衛　谷

炎を懼て沈む江の鮒　雪

松蔭の石の多る長の陽ちく　沾

風寒く笛を吹　角

菖蒲うゑて月入の孫金蓋よろこぶ　源

御廟の清士う被[illegible]　荷

角切て紙敷る敷る鹿の子　雪

鉢に食らく筐の陰　岩

山ひろし笑を逸へて覧　角

了々鶯く毒の子　青沽

笹賞ふずる漆を人あくて　荷

雪の[illegible]月を休せ塩焼　徳

萬葉よりもの名所う　谷

霞　とりかはらう又　岩城山　雪

日當午

凡なくてかうもう猫水　蚊足

朝滴禊よつもさきさ水　湖風

日さうの水ぶりの山猫　文鱗

雨うれく地息物むんさう猫　由之

一すしにさふ月かすぶうす　金峯

炭うもひとへ猫のあうし水　野水

二荒の山雪

あまたをしくとふものひとりの猟　枳風

ちるハしの酔のさめるタさくら　自悦

好きりしてさくらの春色　且藁

筏士乃笠ふるこさ猟りな　嵐水

物忘れ乃ちさうもれさくらもれ

石竜(クハト)よさくらふぬ一ツ夕井　松江

寒深く人ハ乃もれさくれ　孤屋

さまくの人すもあるぬ猟りな　野馬

抱きく物をのぞくちるふ　魚見

剃髪

ゆり乃ゆるもれさくふ　荷兮

勢田脊望

やるさくら身をハ注のれ捨ふ井　其角

仁味衣

電乃ゆるもれ木ハ物さくふ　仝

思ふ乃ちくしてくれ乃ゆるもれ

雖卒於陽くるる前の窪ん　枳風

釣臺

舟寄ん洲濱乃蓑代夕日ト　沾蓬
山の鶴よ餌(エバ)求く端居ナ　冬市
らんをいさむる蜑の子の羽ト　濁子
宮ほくしるさしあやさ舟早ス　羽笠
やさきにぬれはまるほしナ　尚白
あるんまをまかれやつ夏　沾荷
築山を敷すのこう宮つし　宇齊
咲まて行人もぬてしト　破笠

東遷華姥の孫りや此のさく　文鱗
鶴ちんひしをすかる鷺乃門　三園
ほさきや　ら此しろく　素堂　苣若

春朝

鄙ありけてくしも買ふ鯨ふ　嵐雪
ち重

年乃時ほるつりや茶摘歌　蚫足

春夜

ゆとれの鶴居ふ此ト　其角

仲竜を詠ける

[illegible]の日を囀る[illegible]むらん　芭蕉

原中や物なつかしき草の花　同

[illegible]

嘯くも[illegible]流るひとつ　孤屋

烏帽子を重ねたる[illegible]　野馬

山を焼く[illegible]寒く御簾巻て　其角

光けく[illegible]網に入魚　[illegible]

水鳥や庭の[illegible]乃毎[illegible]　馬

稍活かゆかりの松　角

禪(ウ)僧の赤袈裟かける滝　屋

李白の募(ツノ)る盞乃数　[illegible]

俳諧の誠[illegible]草[illegible]　角

雪乃力[illegible]行れる音　[illegible]

樫原や椿(ツバキ)流るる[illegible]　馬

男[illegible]　角

[illegible]を盗入と立さわぐ　屋

[illegible]たたかる磬(モトヽリ)　馬

血乃涙石の灯籠の朱塗 角
奥の松形の成極る枝留 屋
降るも哀なる雨の音ス乙 弓
月丸乃雑木乃ゆらぐと吟 角
せゝらぎ名て鎖金ありく流れ 金
吹を遠ゆ山ゆ山ゆ 角
物くゆ薬ゆ物を乃ゆ 馬
手ゆ引ゆ角入ゆ 金
親い見ゆい河ゆ暮ゆ 角

折ゆ月ゆ月の夕月 弓
唐紙乃部ゆ物ゆ吟ゆ 屋
四手清入ル乃門乃中 角
うゆ残ゆ波の深淵の雪白 弓
葉すゆ松ゆ際(サカヒ)月ゆ雲 金
珠数ゆ乃ゆ乃ゆ瀬ゆ寺ゆ 角
あゆ乃ゆ物乃ゆ所ゆ 馬
被(カツキ)波ゆ乃ゆ大ゆ 金
うゆ乃ゆ藪乃切ゆ 角

五月雨塗さん蘭を笠にして　馬

湯の夕べ大原さびて　啓

思ふ物笑いまし恋の隅　角

ぬれて摘む麦食乃友　る

續雪中庵

麦うゝ部

俳諧雪中庵蕉翁句碑

俄錦集

本尊ゝ他けるを和ゝ沢　意朔

蜀魂背をする猿か　暮角

郭公なくゝ鶏冠ゝ同ゝし　芭蕉

浪舟や大宮ゝかゝ国ゝゝす　其角

杜鵑鳴て後立春やうん　松風

まあを　孫ゝ者ゝ人ゝ

[illegible]彫妹よしへて[illegible]　具角
[illegible]一[illegible]の[illegible]　秋風

待乳山三句

[illegible]　如流
[illegible]　具角
[illegible]　蚊足

[illegible]足[illegible]
[illegible]　角

川[illegible]衣[illegible]　揖[illegible]
樽[illegible]皆　童[illegible]　蚊足
[illegible]秋[illegible]
扇[illegible]日記[illegible]拾る[illegible]　同
蔭[illegible]所[illegible]土[illegible]包[illegible]　角
僧[illegible]　足
[illegible]　角
神鳴[illegible]　足
[illegible]狂惑[illegible]命[illegible]　角
　足

所原近き　吾嬬の庵　角

思啼(キ)めるさ岡もゝ跡さへ　芭

お髪惜む月もうしなひて　角

江を隔る亭の孤燭白くかゝり　芭

るゝ信(ニカ)濃路の秋田の秋風　角

却盞(カケ)重ねて首をうなだれ　芭

勇士の土産は梅をわり　角

美女の酌日長けをも暮海　円

楽めしく奥の詠を書　芭

或ハ志ゝ住吉浪ゝ遣(ガハ)れ　角

七食の剖て安き世を知　芭

町ゝ三茶ゝ茶筅賣　角

苑を飛田の狐ゝ　芭

高灯籠板の猪ゝ　角

聴稲苑さく湖乃限(クヽ)　芭

情蛤の一ゝ流れ　角

隣ゝて拝(ハタ)の糊ひく　芭

通(リ)ゝ冬乃驛の夕あ　角

降りつもる雪の玉味噌　足

屋うりよ松の緑成るべくうれく　角

及故う緑ゆる閑か偷ニうそ

顔あらら都の交のあつそ　同

豆らん数もんを笑い迷　角

世中の恥よ駝のうちひて　同

寺うりするしあらん春の月　そ

妾在閨　十八句

眉帚乃緑うの瞿麦の白ず　巴風

螢消よる帳の裾とく　公化

おとるる二つ井桑筒の桃　そ角

柚口寒くて梅を岸を次　風

藤人の後ふむ音を夕月夜　化

かちうを生んで紫の　角

隠家や板垣ふむ秋深　風

筆捨ては恋う名を問　化

滝見して乱るる餐のあてやうふ　角

山鳥うつすかりの蓋　風化

花の孤燭ひとりをいとうて　化角

駐車同上下さ形の花　角

殊更に落雪かるる門かぶり　風化

いさよ出口のせん茶の香　化角

道心ゆかく志ふかき迷　風

涓滴小仏の開　化

一鏃の敵の牛吼有来新　化

薄ゆきうつる遠山の暁　角

八月母乃忌にあたり

為まるく衣うへ外月ふ　具角

初七日にあたりて

笑まる母をかへすの郭公　同

五七日追善會

卯月も母なき初うつ　芭蕉

香湯のうつりかの多　キ角

ちしのさをうつ月沈て　氏寿

各悼

[illegible]月の雁鳴の日数[illegible]　露沾
[illegible]　秋風
[illegible]　沾徳
[illegible]　擊白
[illegible]　嵐雪
[illegible]　敵足
[illegible]　去来
[illegible]　野馬
[illegible]　金峯

[illegible]　魚兒
[illegible]　鰐　其角
[illegible]　嵐雪
下部[illegible]鰐[illegible]日や　佛
端午三七日よりあとの[illegible]
[illegible]　其角
[illegible]　紋水
[illegible]　魚兒

カシラ
髪しや萬さすの月の雫　秋風
懺悔の味わるさを知れる　彫棠
手たゆる侍法しの高　仙化
白髪のいとまさくなれ　魚貝
花芝や蘭ニさそ姫の中　治蓬

禾村

筍よ乗ちわ奥よ大めん　其角
筆やかり屋の茶の湯も　嵐雪

自詠

髮ちて容顔アカ変しの五月雨　色蕉
ちりしよ三日月称む五月雨　去來
さみのやや濤ま所水の位ミチ　治德
ちちれよ乗かり星所月見井　巖翁
逐流を周のつ頃ちう四十花　巴風
黄金ニ姫を乃ち所田植所　孔雲
合和ちく友ちへさ田植ち　其角
母の乳姫て四植の女う那　野馬
久ち菜や粉ヨ菊ちち早苗ち　冬市

雨乃日の早苗に徒子を燃うれ　由之

暑さ日やすを忘る

入およ田舎乃ひく〻里とそん　観水

そそそそそく男そうの式男稀ホ　不卜

都乃んか桶ゑ艇とれうはと　高政

あをのうすれ鶏て老を敲ケり　濁子

鏡れをもすほくきり形縄うれ　玖也

月そ入我ゑて出る形ホ　風虎

甲斐の山中

山猿乃れがらい用るむそうれ　芭蕉

吉寺や修ゆすすすす梭桐のふ　三園

むそうみのもてく

世をとへと安くゑる稜うれ　自準

田家

むしして宮うるそし文の月　松風

つうそそくそそ放さるはるホ　魚兒

うやわゆよ燒ひくゑるほるホ　溪石

消ひく芦ようそ宮うな　野馬

兎角よ个つかまてて萱ミん　孤屋

蛾乃夜ハし　強(?)ク敗(?)出よ哉　觀水

東津(?)へまかりく

山里乃蚊ハそ昼中に喰れ暗(?)　去来

ほやりまく名(?)れ是でふ夕ヶ那(?)　萬吻

あちの人瀬ら様了ゆし枕蚊屋　子春妻　綾戸

薇(?)藤(?)しく香りうそ蓮(?)　竹簀(?)の(?)　去来

夜あらしや吹枝しだる蝉の羽(?)　小千

啞(オシ)蝉乃啼(?)ふ樹をありし也　杉風

洗濯の袖干し蝉る夕月かれ　杜國

土さへさけてある日あつさも

蝿追ひし　妹忘れぬや　風作り　其角

かく迦(?)も家(?)山里乃風の味　翠紅

風喰ふよ杉陰でそゝき日暮かな(?)　李下

夏(?)れ日の入あひつゝや雀かれ　鼎心

あさつの日よ彼や(?)つほす汐場かな　好柳

誦銭神論

一文乃銭いつくまや夜乃水　蝦足

踏[illegible]て示し[illegible]清水　嵐水
合歓木乃睡り[illegible]　仙化
さく[illegible]解　芭蕉
くさ[illegible]竹[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の小[illegible]室　千春
[illegible]小[illegible]　其角
乃[illegible]の[illegible]
山[illegible]　千春

[illegible]　其角
陳[illegible]
[illegible]
何[illegible]六月　桐を[illegible]　同
心法其精口耳粗
蠅を[illegible]生死を[illegible]　幻吁
納涼
時[illegible]土用　初乃[illegible]
[illegible]為て朝起　晝寐　夕涼　其角

落得閑

世をいとふ法をこそ深くすれ　文鱗
人のなさけを捨てぬ捨ぬる　李下
捨ぐ涙檜笠にすむ夕ぐれ　冬市

宿二尊院

深山おろや愛宕よりすゑ　観水
更るあをを濤よ敷みすみれ　去来
深〳〵や雷おとさぬ夕雨霄　冬柏
竜竈や水のうゑ扇のうら深き　由之

暮ぬるて春の月なれ深ぬれ　虚谷

奥刃黒塚みく

花錦集

はるのうゑ鬼ぬるもなすくを　維舟

源義経平家退治の時
上洛の鎧ぬぎかけるそて
ぬ物のそてをとゝめや

あるすれ月ぬるも物ぬれなすくを　同

逐涼　二句

深さや光弟ぬ人ぐし星　其角
周の夜やすむ閑の寒かり　文鱗

雨後

つゆはれぬ水もの[illegible]る蓮うれ　野馬
蓮[illegible]師の[illegible]包[illegible]水ぶ　卜千
[illegible]る[illegible]　全峯
[illegible]　且只
ひ[illegible]の[illegible]　破笠
[illegible]の[illegible]　其角
[illegible]　濁子
江州[illegible]て面郷

千瓢を[illegible]て[illegible]　自悅
つ[illegible]日[illegible]角豆垣　鈎雪
一[illegible]　虚谷

つ[illegible]

夕立[illegible]　巴風
夕立や[illegible]　仙化
夕立[illegible]蔦[illegible]　其角
夕立や[illegible]粽[illegible]　僧宗流
夕立[illegible]主[illegible]　沾蓬

午塾

病人を杖もしやうく立用ひ　蚊足

鎧ぬぎつれるめさん土用干　去來

うく移や場所にいろく立用干　其角

或人所持のたんさくに

何もれ我頭滝袋　支考　澤庵